

## APRICOT 2024 参加支援プログラム

### 参加報告書

2024年3月18日

早稲田大学政治経済学部経済学科

滝田 愛澄

はじめに

2024年2月27日から3月1日にバンコク (タイ) で開催されたAPRICOT2024へJPNICのAPRICOT2024参加支援プログラムを通して参加した報告を行う。

参加したセッション

- Conference Day 7, 27 Feb
  - APRICOT Community Meeting
  - APRICOT 2024 Newcomers Social
  - APNIC Foundation
  - Opening Ceremony & Plenary
  - APOPS 1
- Conference Day 8, 28 Feb
  - APNIC NIR SIG
  - Innovation 1
  - APNIC Panel Discussion
  - APNIC IPv6 Deployment
- Conference Day 9, 29 Feb
  - Diversity & Inclusivity in Tech: Panel Discussion
  - APNIC Open Policy Meeting 1
  - Operations 1
  - NOG Reports
- Conference Day 10, 1 Mar
  - APNIC AGM 1
  - APNIC AGM 2
  - Lighting Talks
  - Closing Plenary

印象に残ったセッション

#### 1. APNIC Foundation

タイやフィリピン、ラオスなどアジア諸国で活躍している女性エンジニアの紹介がされた。

APRICOTの運営として貢献している方やITILに関するプログラムを修了された方、セキュリティエンジニアとして活躍されている方など、この業界で少ない女性のロールモデルになる方々が紹介されていた。このセッションは現在活躍している方をロールモデルと紹介することで女性の少ないネットワーク業界で女性も参入しやすいような状態にすることを目的としていると考えられる。技術が中心に紹介されるカンファレンスで人に焦点を当てたセッションであり、技術の中心にいるのは人であると再認識した。

## 2. Opening Ceremony & Plenary

このセッションはAPRICOTの開会式である。伝統芸能と挨拶に始まり、二つの発表があった。特に印象に残ったのはMona Jaber氏のThe Intelligent Internet of Things for Sustainable Development Goalsという発表であった。ネットワークの視点から、小型のセンサーによる相互通信や中央へのデータ収集により、現実で発生している事象を数値として認識することができる。道路に搭載されたセンサーは車からの振動を感知し、その車の種類や大きさ、乗車人数も推定することができる。これにより最適な物流や交通の整備をすることができ、結果的に二酸化炭素排出量削減にも貢献する。データを利用した最適化はSDGs実現にさまざまな方法で貢献する一方で、セキュリティリスクやSDGsがそれぞれコンフリクトする課題が残っている。あくまで技術は人間の生活を良くするものであることを強調した興味深いセッションだった。

## 3. Lightning Talks

期間中に登壇者が募集される1セッション5分の短いライトニングトークである。他の30分間の発表とは異なりコアなトピックに具体性の高い内容のセッションであった。特に興味深かったのはAkio Sugeno氏のHow Peering at NYIIX Helps The US School Marketである。NYIIX社がペンシルベニア州の教育機関IU13のネットワークのピアリングを助けた。今まで6つの大企業が混在して提供されていたネットワークをNYIIX社で統一することで、過去30年で常に増え続けていたコストを初めて削減した。大企業の提供する技術は汎用的である一方で局所的な最適化の余地はあることを示した取り組みであり、私の関心のある技術の社会実装の事例であった。

今回の経験を今後どのように生かしていきたいか

### 1. 最新技術を常にキャッチアップする

国内外での最新技術や流行りの技術を知ることがAPRICOT参加の目的の一つでした。私はネットワークが専門ではないため、基礎的な部分を独学で勉強しているが、机で学んだ技術が実際どのように社会で利用されているかの実感が湧かなかった。APRICOTでは日本だけでなくアジアを中心とした海外で利用されている技術を知ることができたため、それを理解することを目的にネットワークの基礎的な勉強を進めたい。特にIPv6やQUICは、その大枠はシンプルであるものの、その裏にある技術やセキュリティ、新たな課題なども知る

ことができ、面白いと感じた。自分が学んでいることがどう社会で利用されているのか知るためにも、今後も常に最新技術を調査し続ける。

## 2. 技術組織の倫理観を共有する

私は一度だけJANOGに参加したことがあるが、ジェンダーやマイノリティに関するセッションがあることがJANOGとの違いの一つであった。発展途上国におけるインターネットの話題は国際会議特有のものだと感じた。また、ジェンダーの課題は日本国内でも同様に存在するが、特に議論されておらず、技術カンファレンスであっても、技術以外の倫理的な問題を考える必要があると感じた。また、APRICOTと同時開催されたAPNICは、その組織構成自体がお互いの協力関係によって成立していると知った。APNICは意思決定をする組織でもあるためJANOGとは組織構造が異なるが、その組織構造は今後自分が会社や団体に所属した際の参考になると感じた。総じて、技術者として技術だけでなく組織や倫理などのソフトな面にも向ける必要があることは今後自分の周りで共有していきたい。

## 3. 英語の勉強を続ける

APRICOTの全てのセッションは英語で行われる。日常会話ならまだしも、技術の話題では専門用語が多いため、聞き取るのにかなりの集中力を要した。英語力が理由で大事な話を聞き逃したり、コミュニケーションの機会を失ったりすることを避けるために、技術者として英語力をつけることは重要であると再認識した。特にディスカッションの多いセッションでは話題がすぐに変わるため聞き逃した部分が多かった。カンファレンスの参加だけでなくドキュメントや講義の聴講のためにも英語学習は続けたいと思う。

### 参加支援プログラムに関する所感

この度は参加支援プログラムを通してAPRICOTへ現地参加させていただきありがとうございました。金銭的な支援だけでなく、事前の打ち合わせでの不安解消や、現地での交流会、他の参加者や運営の方をご紹介いただくなど、このプログラムを通したからこそ得られた経験がありました。事前の打ち合わせではカンファレンスのプログラムがどのような内容なのか、SIGやAPOPS、AGMなど一目で分かりづらいプログラムに関しても解説していただき、事前の準備やどのセッションに参加するか決定するのに役立ちました。また、JPNICの方を通してICANNや他日本企業で働かれている方をご紹介していただき、現地でしか聞けない貴重なお話を聞くことができました。改めて、今回の参加に関してご支援していただいた皆様に感謝申し上げます。